

第43回 緑の市民懇話会 会議録（要旨）

1 日 時 平成30年4月23日（月） 10:00～12:00

2 場 所 生駒市役所 401・402会議室

3 出席者

（参加者） 久隆浩座長、下村泰彦、新居延之、井上良作、倉品夏江、澤村章男、高橋美由紀、長尾夏江、日高容子、山田勲、山田陽子、秋山解、植田ひろみ、増田千佳

（事務局） 北田都市整備部長、岸田都市整備部次長、財満みどり公園課長、知浦みどり公園課課長補佐、大神花のまちづくりセンター所長、竹田みどり公園課主幹、上田みどり公園課主査

4 議事内容

（1） 開 会

（2） 案 件

①平成30年度みどり公園課所管の緑化推進に係る事業及び花のまちづくりセンターに係る事業概要について（報告）

②ボランティア養成講座「花とみどりの楽校」について

（3） その他

5 議事録

（2） 案件

①平成30年度みどり公園課所管の緑化推進に係る事業及び花のまちづくりセンターに係る事業概要について（報告）

【事務局説明】

<基金>

- ・資料1-1 生駒市みどりの基金について説明。
- ・この基金を使って、後に説明するボランティア養成講座・花とみどりの楽校・生垣助成制度・花と緑のわがまちづくり助成金等、多くの事業を実施している。これらの事業は資料1の次のページに記載している。

<緑化景観系の事業>

- ・資料1-2 ボランティア養成講座 花とみどりの楽校について説明。
- ・応募者の減少、ボランティア団体の後継者不足、これらの状況を改善するため、皆様のご意見を後の案件2で伺いたい。その結果を今後の事業計画の参考にしたい。

- ・資料 1-3 樹林地バンク制度について説明。
- ・過去 3 件成立しており、樹林地の整備も完了している。現在、樹林保全活動グループは 3 団体である。

- ・資料 1-4 市民の森事業について説明。
- ・毎月の活動への参加、地域の憩いの場、子ども達の遊び場としての利用を促す目的で、七夕イベントや、流しそうめんを実施した。生駒台小学校の授業の一環として、シイタケ狩りをするなどの利用もある。森の中の落ち葉を利用したカブトムシの家も作っている。日常的な除間伐や、下草刈り、清掃は、地域住民や、ボランティア団体により、毎月第 4 日曜日の活動日に行っている。

- ・資料 1-5 保護樹木等指定制度について説明。
- ・現在の指定実績は、保護樹木 14 本、保護樹林 5 箇所。

- ・資料 1-6 生垣助成制度について説明。

<公園管理係>

- ・資料 1-7 コミュニティパーク事業について説明。
- ・平成 28 年度は、真弓 1 丁目公園を平成 28 年 12 月から平成 30 年 3 月の期間で整備した。今年度は 6 月 1 日の広報誌で募集する。応募された公園について、皆様の意見をいただくために、8 月上旬頃に懇話会を開催する予定にしているので、その折には協力をお願いしたい。

<花のまちづくりセンター>

- ・事業概要については、資料 1 に記載している。
- ・資料 1-8 ふろーらむイベント（春・秋）について説明。
- ・今年度、花・緑まちづくりフェスタの開催は、春は 5 月 13 日（日）、秋は 10 月に予定している。実行委員会形式で協議を重ねて実施している。南地域の市民の方に当センターを周知していただく目的もある。普段おこなっている教室の内容をコンパクトにまとめた、体験コーナーがある。春は、花と緑の景観まちづくりコンテストの表彰式を 9 時 30 分から行う。

- ・資料 1-9 月例講習会について説明。
- ・平成 28 年度は 60 回、平成 29 年度は 72 回開催しており、平成 30 年度は 81 回予定している。
- ・月によって講習会の回数は違い、花と緑に関する講座以外に、カフェボランティアによるコーヒーの淹れ方講習会等、いろいろな講習会を予定している。

- ・資料 1-10 花と緑の景観まちづくりコンテストについて説明。
- ・審査要領により、今年度 皆様に審査をお願いしたい。
- ・応募件数が減少している。平成 28 年度は 22 件、平成 29 年度は 17 件、今年度は現時点で 10 件

の応募である。先の3月の懇話会で、学校に周知されていないのではという意見があり、小中学校へは応募用紙を添えて案内したが、現在まだ新規での応募はない状況である。当コンテストのレベルが高いと躊躇されているようにも思われる。

- ・今年度から、審査委員本人又は関係団体が応募した事例については、当該審査委員による審査は、公平さの観点から行わないこととした。

- ・資料 1-11 花と緑のわがまちづくり助成制度について説明。
- ・以前は、市内自治会等へ花苗を交付し維持管理されていたが、自由な育成ができないという理由から、現在は予算の範囲内で8万円を上限に助成金を交付している。
- ・平成28年度105件、平成29年度102件。今年度も100件程度だと思われる。

- ・緑の相談について説明。
- ・緑の相談員による花と緑の相談を火・木・日曜日はふろーらむでおこなっている。また、ふろーらむから遠い地域の人々が利用しやすいよう、金曜日の午前は、たけまるホール、午後は南コミュニティセンターで出張相談を行っている。

- ・資料 1-12 花好き・自然好き市民交流サロンは、年6回偶数月の第1土曜日に、花好き・自然好きの市民の方が集まり、そこでの交流や情報交換した内容をサロンニュースとして発行していた。これまで72回開催し72部発行済みである。しかし、近年の参加者の減少等により、内容を見直すこととなり、平成30年度から、関係者と協議のうえ一旦休止し、新たな方策を考えることとした。何か良い案があればお聞かせいただきたい。

- ・資料 1-13 C a f eボランティアによりC a f eを運営している。花と緑のまちづくりへのきっかけづくりや、コミュニケーションを図ることができる「ふれあいスペース」として設けた。憩いの場や花と緑の情報交換の場として有効に利用されている。
C a f eボランティアは、コーヒーの淹れ方講習会やイベント等の企画を出すなど、楽しく前向きに活動している。

- ・その他
花のまちづくりセンターふろーらむでは、ビニールハウスで種から苗を育て、デザインを考え庭に植えている。これまで単調との声もあったが、流行のナチュラルガーデンを取り入れて、きれいなゾーンができている。ここを拠点に他へも波及するよう、取り組みの様子やノウハウなどを、ツイッター等で情報発信しはじめた。

【参加者意見等】

- ・こんなにも沢山の事業があることを、今日参加して知り、素晴らしいと感じている。私自身、来年から小学校で、花と緑の景観まちづくりコンテストに取り組んでいこうと思う。

- ・学校は、ここ何年かで管理職が代わっている。今年は特に多い。その年ごとに、学校等に足を運び、力を入れてくれる先生を見つけて後継してもらうことが大事。声かけしたいと思う。
- ・この懇話会参加者の尽力もあり、ある地域では、学校部門とコミュニティ部門で応募し、賞もとっている。このような地域が増えれば嬉しいという表彰制度なので、他にも声をかけてほしい。事業所部門は応募件数が少ないため、確率的に入賞のチャンスがある部門である。
- ・早い時期に募集があることを教えてもらえれば、事業所部門で応募してくれそうなところがあるので、声をかける。
- ・申込み締切日以前に応募の意思を伝えていれば、応募用紙の提出は、申込み締切日を過ぎてても可能。
- ・資料1で、平成30年度 生駒市みどりの基金 寄附金等 500,000 円の見込みとあるが、何か予定があるのか。
⇒毎年この金額を目標額としている。
- ・次回以降の懇話会で、どうすれば寄附金が集まるかも話し合えばよい。税の控除があることを知らせる等、寄附する意欲が高まるようなアイデアがあれば出してほしい。
- ・緑の基本計画の見直しのときに、議論する機会があるので、いろいろな意見をいただきたい。

②ボランティア養成講座「花とみどりの楽校」について

【事務局説明】

- ・現状の問題点を改善するために、いろいろな意見をいただきたい。
 - ・ボランティア養成講座の設立目的・背景について説明。
 - ・本市の考えとしては、生駒市緑の基本計画に基づき、特に、花と緑であふれる庭先・窓辺・まちかどを創り・育む市民のまちづくりを推進するため、担い手づくりを進めたいと考えているが、年々応募者と受講者が減少しているのが現状で、これまでおこなってきたボランティア養成講座、花とみどりの楽校を続けていくのが良いのか、別の方法があるのかを模索している状況である。
- また、花と緑に興味がない人に、いかに興味を持ってもらうかも課題と考えている。花の分野・緑の分野ともに、ボランティア団体の後継者不足などの問題が生じており、後継者の育成方法も含め、それぞれの立場から率直な意見を聞かせていただきたい。

【参加者意見等】

- ・一定の役割が終わっているのであれば、今年度から中止するという答えもあり、無理に続けることでもないという選択もある。続けるならば、どうするかという意見があると思う。
- ・目的があって内容が決まるが、その目的そのものを変えてしまう手もある。何のためにこの楽校をや

るのか、目的の変更も含めて議論してもよいと思う。

- NPOや市民団体にお金を渡し、内容も含めて任せるといった選択肢もある。

- 気づき編だと思うが、親子自然観察に何度か参加している。いろいろな家庭があり、虫が嫌いな母親は多く、虫の知識を持ってない場合が多い。その為、子どもは虫に興味があるのに、採りに行かせることができない。結局、購入する、ネットで見る、昆虫展で見せるということになる。生駒は環境に恵まれて、山麓公園も整備されており、少し行けば自然のものが捕れる。どこに、何がいるというようなことを知らせる場として、親子で自然観察というのは、とても良いと思う。せっかく山に囲まれた環境なので、NPO等に委託するにしても、続けていけば、子世代には良いきっかけとなる。

- 気づき編は続けたほうが良いという応援演説なので、事務局は参考にしてほしい。本来の目的はボランティアを育てることであるが、そのもっと手前からスタートしたらよいという意見である。

- 今の意見に賛成である。役所は、人数が減ってきたり、応募数が減ってきたりすると、駄目なのか、やめるべきなのかという考えになるが、そうではなく、絶対に続けたいという人が1人でもいるなら、また、保護者に知識がないために、子どもがかかわることができないのであれば、続けてほしい。親と一緒に来られなくても友達の家族と一緒に参加できるなど、参加しやすいようにしてほしい。

- 綺麗に花を飾る家庭が増えている。花と緑の景観まちづくりコンテストに応募する数は減少しているが、花や緑を増やそうとする意識が定着してきているとも考えられる。応募が少なくなったからやめるのではなく、数字にこだわらず、一人ひとりの思いは大切にしてほしい。

- いろいろな所で同じようなことをやっている。いこまの魅力創造課「まんてん生駒」のイベントでも、山麓公園で遊ぼうというようなことをやっている。ここだけで完結するのではなく、いろいろなところがやっているイベントとコラボして、繋いでいくことも試みとしてあると思う。ここで完結したパッケージにしてしまわない。他の部署でやっているこれと、うちのこれとパッケージにしたら、こういうような展開になるというような発想もあってよい。

- ざっくばらんに見れば似たようなテーマかもしれないが、実は全然違うというように、垣根を越えて、いろいろなテーマに取り組むのも、また、何か大きな枠組みがあって、その中の一つにするというのも、大きな案かと思う。というのも、ガーデニングとか植物に興味がない人は、それを一つ参加する選択肢として与えられてみないと検討しない。なので、その人が別のことに興味があって、本当はそちらに興味があるのだが、こちらも紹介されたから行ってみようかという、そういうきっかけがあるとよいと思う。

- 他市の山の開発で、開発地域の1/3を森で残すことになっている。そこで、フクロウの観察会や、フクロウの森を守るというおもしろい取り組みをしている。単なる森を守ろうではなく、ここにフクロウ

がいるので、フクロウを守るために森を守らなければというストーリーにしたほうが、いろいろな人が来る。そういうような、キャラクターなどで心をキャッチする方法もあると思う。

・森の管理者が、森の中で現代アートの展示会を開催した。そうすると、森に興味はないが、現代アートを見に来る人が山に入る。その為に、所有者がハイヒールでも上られるよう山道を整備した。つまり、山に入ることはハードルが高いが、気楽に入れる環境を作った。いろいろな入口を沢山作っておけば、森に興味はないが、どこからか導かれて森へ来る人が増えるという、一つの典型的な話である。今回はそこまで出来ないかもしれないが、少し間口を広げる方策もあるのではと思う。

・ボランティア養成講座から少し話がずれるが、気づき編は非常に良いものだが、知らない人が多いと思う。生駒市が昨年開催しているサマーセミナーは、親子連れが多い。セミの羽化を見てみよう等の、とっかかりになるゼミをすればどうか。実際に見に行くのは別の日で、そのための説明会をサマーセミナーでということもできるのではないかな。そうすれば、新しい人にも知ってもらえる機会になる。

・花とみどりの楽校の立ち上げの時に、ネーミングも含めて取り組んだ内容なので、一言、話したい。最初、ふろーらむでは、花の植え方であるとか、立派な育て方であるとか、カルチャーセンター的な役目があり、それと、この楽校とをどう区別するのか迷った。

ボランティアを、更にボランティアのリーダーを、地域に戻って周りの人を集めて、地域の花づくり・緑づくりに貢献できる人を養成しようと思った。

非常に立派な皇帝ダリアが出来たり、上手く寄せ植えを作ったりするのではなく、どれだけ街並にとって、風景にとって良いものかどうかを考える養成講座である。

効果があったかどうかを人数でカウントして、少なくなってくると見直しがかかる。税金の投与率、効果がどれくらい発生するかは役所の宿命なので仕方がないと思う。しかし、現在、緑や花で活躍している人達が、街並を考え、木を伐ったり、花を植えたりすることは、かなり注目されてきていると思う。同じ連続講座を受けた受講者が、将来、横の連携やコミュニティが繋がり、共に、花・緑の活動をするというのも、連続でおこなう意味だと思う。ただ、花・緑について、里山や自然環境学習的に特化した形に楽校が変わっていったことは、人数が少なくなってきたからだと思う。

また、10年ほど前に流行った、小学校での総合的な学習の時間がダメだと言われだし、環境学習的なことを学校でやらなくなってきている。しかし、そのビオトープ的な環境教育を受けてきた人達が、そろそろ20歳を超えてきており、そういった大事さがもう一度復活してくる可能性も無きにしもあらずだ。楽校の名前が消えたとしても、緑や花をテーマにした学習は、他の環境学習と一緒に、まちづくりや子育ての中に盛り込んででも、何らかの取り組みをお願いしたいと個人的に思う。

・ボランティア講座の実践編ではなく、ボランティアリーダー講座というように、自分たちの活動をまちづくり全般の中で位置づけてみるような視点を目指していたはずである。日常的にふろーらむでやっている実践講座と少し質を変えて、差別化を図ったほうがよいのではないかな。あるいは、その実践編と楽校をどういう風に連携させていくか。

・ボランティアの高齢化という話が出たが、新しい方が入らない、特に若手をどう取り込めばよいのか、いろいろな市民活動団体をお手伝いしているが、どこも同じような悩みを持っている。そのアドバイスも増えてきた。すでに自分たちがグループを率いて活動しているが、もう一度見直してみるとというような内容の講座があってもよいと思う。

・花とみどりの楽校の卒業生だが、里山づくり編も受講し、一緒に受講した仲間たちとボランティア団体に入り、その内4人が現在も在籍している。講座を受講したことによって続けていこうという気持ちになった。先生は、めったにお会いできないような方で、とても有意義であった。このような有意義なところに、なぜ皆が行かないのかと思う。少なくとも希望する人はいると思うので、是非、続けてほしい。

・花とみどりの楽校（花の講座）の2期生である。このときは、15人定員のところ40人の応募があり、高い競争率で入れたこともあり、一所懸命勉強した。現在、4期までの縦の連絡をとっており、約20数名が花の活動をしている。森のほうもやってほしいと頼まれるが、二の足を踏んでいる。自分で本を読んだり、地域の仲間と花に取り組んでいたが、それだけでないものを、楽校でいろいろ教えてもらった。庭先だけでなく広範囲にももの考えられるようになった。講座を残してほしい。役割が終わったのではということも耳に入るが、それだけでないもの、心の宝になるものも沢山ある。ボランティアを表に出すと二の足を踏む人もいるが、大きな意味で、成長できる、ものの見方も変わる。是非、そういうものは残してほしい。内容は考えてあり、良かった。ためになった。

・この時間帯に一日かけて来られる方と、そうでない方がいて、そこがハードルになっているかもしれない。日程・スケジュールリングの問題があるのかも。来ないのではなく、来られない可能性もある。

・週末でないと若い方は参加できない。回数はもっとあってよかったと思う。若い方にPRするような広報の載せ方を考えればよいと思う。

・どのようにPRして、どのように広報しているのか。また、参加している方はどのようなきっかけで知ったのか。

⇒2ヶ月前に広報誌とホームページで案内している。どういう形で知ったかは、今資料が手元にないのでお答えできない。

・概略で言うと、広報誌で知ったが一番多く、あとは口コミである。ホームページは少なかった。

・私は広報誌で知り、友達を誘って気づき編に参加した。若い母親は広報誌を見ない人が多い。広報誌を1回も見ることがない人もいて、そのようなグループの人には広がりようがない。市のホームページをチェックしている人も少ない。

子ども関連のものは、学校からの手紙等で情報が伝わる。携帯に届くものもチェックするので、不審者情報が流れてくるメールにイベントの情報を掲載すれば、目にすることになる。不審者情報とは表題を

変えて流すようなことも考えてよいのでは。知れ渡らないと参加もできない。

- ・今の若い世代ではLINE@(ラインアット)が一番見ているのでは。市役所情報はLINE@では流していないようだが、若い世代に届ける新しい手段を市長に提案すれば、実現する可能性は高いように思う。

- ・いろいろな意見を参考に、事務局で組み立てをしてほしい。

(3) その他

【事務局説明】

<連絡事項>

- ・花とみどりの景観まちづくりコンテストの現地審査日程は、5月中旬、9月下旬、11月下旬の年3回予定している。詳細は後日連絡する。午前だけ、午後だけでもよいので参加してほしい。

- ・次回の懇話会は、コミュニティパーク事業での応募内容について、皆様のご意見をいただきたい。コミュニティパーク事業は、地域の皆さんが主体となり、生駒市と協働で、より良い公園にリニューアルする事業である。皆さんの意見をもとに成立するものなので出席していただきたい。

6月1日号広報誌で募集し、応募の中から、次回対象とする公園を選ぶことになる。日程は8月上旬を予定しており、決定後連絡する。

(4) 閉会